

あなた自身を守る自主防災

— 防災組織率は94.5^{パーセント} —

いつ起きても不思議ではないといわれている東海地震。

いったん地震が発生したら、自分の安全は自分で守るしかありません。

そこで、自分たちの生命・財産を守るには、日ごろから町内ぐるみで地震対策にあたる、防災組織が当然必要になってきます。



組織づくりあとひと息

昭和54年度からスタートした自主防災組織づくりは、市と県の補助金制度を併用したことにより順調に進み、現在、330町内のうち312町内で組織化されています。

まだ未組織の町内会については、1日も早い組織づくりが望まれ住民のみなさんが、必ず自主防災組織に入るようにしたいものです。

日ごろの訓練を

自主防災組織をつくっても、万一

のときに活動できないようでは何なりません。

すでに結成されている自主防災組織のなかには、年に何回となく訓練を行い、しかも全世帯が参加するなど、日常活動が活発な地区もあります。

半面、訓練もほとんど行わず、地区民の防災意識が、低い地区もあります。

市は、自主防や、各家庭に配置してある防災器具を誰でも取り扱うことができ、行動の判断ができるようにする。また日ごろの訓練など、自

主防災組織の内容の充実にも指導していく計画です。

9月1日総合防災訓練

自主防災会は、住民のみなさんが自衛意識を持ち、市民総ぐるみで地震や、災害に対応するのが目的ですから、今年も9月1日の「防災の日」に総合防災訓練を行います。

今年の特徴は、平日に行うことです。会社に勤めている人は、在宅していませんから主婦が、重要な役割を持ちます。進んで参加しましょう。

グループ訪問

(20)

食品の安全性を調査

あけぼの会

消費生活モニターとして得た知識や経験をこれから生かそう——と、モニター経験者によって、昭和52年5月に発足。

40人の会員たちは、消費者としての正しい知識と食品安全の調査や学習を行い、一般の人たちに対しても「かしこい消費者」になることを呼びかけている。

現在、商品を買うとき一番の目安になる「表示」について調査中。

今まで調査してきたものに「人工着色料」「自然食品」などがある。また、合成洗剤の問題についても早くから知り、それに対応しているという。

会長の稲葉正子さんは、「消費についての正しい情

報を1人でも多くの人に伝え、家族の安全や家計の安定を……」と話していました。



〔おしょう油の感応テスト〕